

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第6回運営委員会 開催日：1月14日。出席者：長島委員長，ほか9名。

依論文賞候補論文27件について，審査方法の検討および校閲依頼者の選定を行なった。

第11回和文会誌分科会 開催日：1月14日。出席者：長島主査，ほか23名。

1. 21件の論文審査報告がなされ，修正依頼5件，掲載決定13件であった。
2. 「鉄と鋼」第63年第6号（5月号）に，論文15件，研究速報1件，解説1件，掲載決定した。

第11回欧文会誌分科会 開催日：1月17日。出席者：橋口主査，ほか8名。

1. 9件の論文につき審査報告がなされ，掲載可1件，照会后掲載可4件，修正依頼4件であった。
2. 「鉄と鋼」63年1号より3件の研究論文，及びその他の国内誌より2件の研究論文につき投稿を勧誘することとなった。

共同研究会

昭和51年度第2回総務幹事会 開催日：11月16日。出席者：伊木幹事長，ほか23名。

1. 昭和51年度上期共研費使用実績報告 上期使用実績は対予算43.1%の消化率である。
2. 昭和52年度共研予算(案)審議
昭和51年度に比べ26%増の予算を計上し内容の説明後，若干の修正を加えて運営委員会にかけることとした。
3. コークス分科会の部会昇格が承認された。
4. 鉄鋼便覧改訂の件につき説明があつた。
5. 共研と海外の共研に該当する会議体との交流につき討議された。

製鉄部会

第13回コークス分科会 開催日：12月2日～3日。出席者：中村主査，ほか118名。

1. 今回共通議題を3テーマ設定し，各社適宜選定し資料を提出する方法を採用することにした。

共Ⅰ：「熱間におけるコークスの基礎的性状について」新日鉄，鋼管，川鉄，住金，大ガスより資料の報告があつた。

共Ⅱ：「コークス炉炉体および移動機械の管理」関西熱化学，中山，三菱化成，東ガス，新日化より報告があつた。

共Ⅲ：原料炭配合計算に対するコンピュータの応用（三井鉱コークス），コークス下限粒度アップ試験について（日新）よりそれぞれ報告があつた。

自由議題は6件の発表があつた。

Ⅳ. 工場見学，新日鉄・八幡製鉄所を見学した。

鉄鋼分析部会

第29回発光分光分析分科会 開催日：10月28日。出席者：井樋田主査，ほか50名。

(1) FXS二元系試料の基準値

FXS二元系試料の微量成分の含有量についての蛍光X線分析分科会への依頼の結果の報告を行なった。続いて小委員会及び決定した今回の共同実験の解析用基準値についての説明が行なわれ，さらに基準値の新たな追加及び訂正を行なった。

(2) 共同実験結果の報告

各事業所より共存元素の影響調査共同実験第1次分(Si, Mn, P, S, Ni, Cr, Mo)についての結果報告を行なった。結果は各事業所ともかなりよく一致した。

(3) 共同実験結果のまとめ要領について取り決めた。

第64回計測部会 開催日：11月18日～19日。出席者：磯部部会長代理，ほか130名。

1. 野坂前部会長挨拶

第49回～第63回部会長を務められた野坂前部会長より辞任の挨拶があつた。

2. 第3回国際鉄鋼オートメーション会議報告書について 3分冊の1つ概要集の紹介が出席各位より行なわれた。

3. 特別講演「最近の連続鑄造と計測について」計測部会の要望により，製鋼部会を代表して住金・牛島氏へ標記講演を行なつていただいた。

4. 一般研究報告 鉄鋼全般に亘り，34件の資料の発表があつた。今回，川鉄・棒鋼自動磁気探傷設備，新日鉄・プロコン・プログラムの集中生産方式の資料に興味をもたれた。

5. 工場見学 鋼管・福山製鉄所を見学した。

6. 次回開催 昭和52年2月24，25日島津製作所で開催する。

第35回品質管理部会 開催日：11月24日～25日。出席者：河西部会長，ほか87名。

1. 共通議題「新規受注時の引合い検討における品質情報の有効活用，及び引合い検討システムについて」各社より10件の発表があつた。

2. 自由議題

○自社ブランドで販売する加工外注製品に対するQC, QA体制の現状と問題点について 2件(鋼管，住金)の発表があつた。

○クレームの再発防止に関する諸対策の具体例について 5件(新日鉄，神鋼，日新，トピー，日鋼)の発表があつた。

3. 工場見学 (株)神戸製鋼所・神戸製鉄所および菊

正酒造を見学した。

4. 次回開催について

昭和 52 年 6 月頃川鉄水島で開催する予定である。

鉄鋼生産設備能力調査本委員会

製 鋼 設 備 部 会

第 4 回電気炉設備分科会 開催日: 12 月 14 日. 出席者: 池見副部長, 吉村主査, ほか 10 名.

前回分科会において問題となつた稼働時間, 休止時間比の取扱いについて主査が通産省と打合せを行い, その結果により最終原稿を製作し, 出席者で検討したところ, 異議なく承認された. この原稿を印刷にまわすこととし, 本分科会は今回をもって終了した.

標 準 化 委 員 会

第 77 回幹事会 開催日: 12 月 16 日. 出席者: 佐藤幹事長, ほか 13 名.

1. JIS 構造用鋼記号体系

特殊鋼分科会で決定し, 自工会との合意が得られた最終案の説明があつて, 原案通り承認された. また今後他の関連学協会の賛同を得るための対策についての説明があつた.

2. 鉄鋼協会規格通則

適用範囲, 目的, 対象範囲, 分類, 略称などについて検討し成案を得た.

3. 52 年度 JIS 業務計画

各社から 52 年度に改正を希望する規格が提案され, 工技院計画に盛り込むことが要請された.

鉄鋼基礎共同研究会

第 15 回凝固部会 開催日: 12 月 6 日~7 日. 出席者: 郡司部長, ほか 33 名.

今回は最後の定例部会であつたので有終の美を飾るべく多くの研究発表が行なわれた.

I: 第 1 部門・鋼の凝固組織の成因に関する研究 4 件

第 2 部門: 鋼の凝固と偏析の機構に関する研究 9 件

第 3 部門: 鋼の凝固と伝熱に関する研究 3 件

I: 今後の日程について

本年 10 月に部会終了報告を刊行すべく 4 月 6・7 日に編集委員会を兼ね第 16 回部会を開催する予定である.

特 殊 精 錬 部 会

第 6 回第 1 分科会 開催日: 12 月 17 日. 出席者: 井上主査, ほか 15 名.

I. 提出資料は次の 6 件であつた.

1. 小型直流 ESR 炉のスラグ中の温度と電圧の同時測定……東工大

2. SUS321 ステンレス鋼の エレクトロスラグ溶解—合金元素の挙動について—阪大

3. 小型交流 ESR における電極先端溶解現象の観察について……北大

4. 小型 ESR 炉における Ar 吹込み実験……川鉄

5. 溶融スラグからの気化脱硫について……京大

6. ESR におけるスラグおよびメタルプール内混合状態の推算……名大

I. 次回開催について

次回は昭和 52 年 6 月頃開催する予定.

第 8 回第 3 分科会 開催日: 11 月 16 日. 出席者: 郡司主査, ほか 15 名.

I. 提出資料は次の 5 件であつた.

1. ESR 操業中のスラグとメタルプール中の温度および電位分布の測定と発熱量分布……東工大

2. 小型 ESR 鋼塊のデンドライト……川鉄

3. ESR 鋼塊の二次 デンドライトアームの間隔……日立製作所

4. 1000φ ESR 鋼塊表層近傍の デンドライト一次アーム間隔測定結果……日鋼

5. 大型 ESR 鋼塊における二次アームスペーシングの測定結果……新日鉄